加一見了（花押 菊池武光）
木屋弾正左衛門尉行實申軍忠事

右於肥前国田手村、致日夜宿直
警固之上、今月七日属御手仁比山
朝井凶徒追落、同九日於菩提寺
城、一色五郎以下輩没落之
時、抽戦功之条御見知之上者
下賜御判、為備後證龜鏡
恐々言上如件

正平八年七月

進上御奉行所

一見を加えおわんぬ
木屋弾正左衛門の尉（じょう） 行實（ゆきざね） 軍忠申すの事

右、肥前の国田手村において、日夜宿直いたし
警固の上、今月七日、御手に属し仁比山
朝井凶徒 追い落とし、同九日、菩提寺城において
一色五郎以下の輩 没落の時、
戦功抽んずるの条 御見知の上は
御判を下し賜らん、後證龜鏡に備えんがため
恐々 言上 件の如し

正平八年（一三五三年）七月

進上 御奉行所

加一見了（花押 菊池武光）
木屋弾正左衛門尉調行實申
軍忠事

去十月御発向筑前国千手城之時、
属子御手、山攻合戦抽軍忠、両城
没落之後、於豊前国弓削田御陣
致宿直警固、迄子御帰国之期、抽忠
勤了、早下賜御判、為備亀鏡
言上如件

正平九年十一月十五日

一見を加えおわんぬ
きやだんじょうさえもんのじょうしらべの ゆきざね
ぐんちゅうもうすのこと

さんぬる十月 筑前の国千手城に御発向の時
御手に属し 山攻め合戦 軍忠を ぬきんじ 両城
没落の後 豊前の国 弓削田 御陣において
宿直警固を致し 御帰国のときまで 忠勤を ぬきんじおわんぬ
早く 御判を 下し賜らん、 亀鏡に備えんがため
言上 件の如し

正平九年（一三五四年）十一月十五日

一見了（花押 五條良氏）
筑後国木屋彈正左衛門尉行實申軍忠事

右者八月十八日為對治肥前国凶徒御発向之間自
最前令御共、同九月一日小城々攻合戦抽軍忠
為御對治豊後国凶徒、同十月二日御発向日田之
間、令御共、球珠、由布、狭間、国府大神以下
於所々御陣致宿直、豊前国宇佐、城井、至筑前
国殖木、博多、令御共候訖、然早下賜御判
為備龜鏡、言上如件

正平十年十二月 日

一見おわんぬ
木屋彈正左衛門の尉 ゆきざね軍ちゆう申すの事

右は 八月十八日 肥前の国 凶徒 退治のため 御発向のあいだ
最前より御供せしめ 同九月一日小城城攻め合戦 軍忠ぬきんでおわんぬ
豊後の国 凶徒 御退治のため 同十月二日 日田に御発向のあいだ
御共せしめ 球珠 由布 狭間 国府 大神以下
御陣において 宿直 致し 豊前の国 宇佐 城井 筑前の国
殖木、博多に至り、御共せしめ候おわんぬ 然らば早く御判を下し賜らん
龜鏡に備えんがため 言上 件の如し

正平十年（一三五五年）十二月

征西將軍官令旨

筑前国志摩郡内桑原庄参十町領家分
為兵糧料所、可被知行者
依仰執達如件

正平十一年八月七日 勘解由次官（花押 五條頼元）

木屋彈正左衛門尉

征西將軍官令旨館

行實申兵糧料所 筑前国桑原庄
志摩郡代官致達乱由事、申状如此
事实者早止彼妨、可避渡下地於行實
旨、可被加下知之状、依仰執達如件

正平十二年七月二日 勘解由次官（花押 五條頼元）
菊池肥後守殿

征西將軍官令旨

筑前の国 志摩郡内 桑原の庄（参十町 領家分）
兵糧料所として 知行されるべく てえれば
仰せにより執達 件の如し

正平十一年（一三五六年）八月七日 かげゆうのすけ

木屋彈正左衛門の尉館

征西將軍の宮 令旨

ゆきざね申す兵糧料所 筑前の国 桑原の庄
志摩郡 代官 達乱に致るの由の事 申し状此の如く
事实ならば 早く彼の妨を止め、地を渡し下げ避くべき旨
下知を加えられべくの状 仰せにより 執達 件の如し

正平十二年（一三五七年）七月二日 かげゆうのすけ
菊池肥後守殿

加一見了（花押 菊池武光）
筑後国木屋弾正左衛門尉行實申軍忠事

右者三月廿日為御對治大友刑部大輔氏時以下凶徒、御発向豊後国之間、自叡前属御手、於所御陣致宿直、同四月十二日御発向同国竹崎城之時、於麓近御陣、日夜警固之忠、同五月十二日御歸國之時、令御供候訖、然早下賜御判、為備龜鏡言上如件

正平十四年五月 日

一見を加えおわんぬ
筑後の国木屋弾正左衛門の尉 ゆきざねぐんちゆうもうすのこと

右は三月二十日 大友刑部だゆう氏時以下凶徒退治のため 豊後の国に御発向のあいだ 最前より御手に属し、所所御陣に於いて宿直致し、同四月十二日 同国竹崎城に御発向の時 ふもと近くの御陣において 日夜 警固の忠 同五月十二日 御帰国の時 御供せしめ候おわんぬ 然らば早く御判を下し賜らん 龜鏡に備えんがため 言上件の如し

正平十四年（一三五九年）五月

筑後国木屋彈正左衛門尉行實申軍忠事

加一見了（花押 五條良氏）

右為御對治大宰筑後守頼尚同直資以下凶徒
 去七月十九日御渡筑後河之時、令御共、於河北
 岩田、福同原御陣、日夜致警固之忠、同八月
 六日夜、大保原御合戰之時、為東手先勢十
 八人其隨一敢前切入、自丑剋至同七日巳剋、抽
 軍忠之間、若党又五郎、惣扶持人二郎三郎被
 疵、四郎三郎、弥二郎討死訖、然早下賜御判、
 為備龜鏡、言上如件

正平十四年八月 日

筑後の国木屋彈正左衛門の尉 ゆきざね軍忠申すの事

一見を加えおわんぬ

右 大宰筑後の守 頼尚 同じく直資 以下凶徒御對治のため、
 去る七月十九日 筑後河 御渡りの時 御供せしめ 河北
 岩田 福同原の御陣において 日夜 警固の忠を致し 同八月
 六日夜 大保原御合戦の時 東手の 先勢 十八人
 其の随一として 最前に切り入り 丑の剋より 同七日巳の剋に至る
 軍忠抽んでの間、若党又五郎 惣扶持人二郎三郎 疵を被り
 四郎三郎 弥二郎 討ち死におわんぬ 然らば早く御判を下し賜わらん
 龜鏡に備えんがため 言上件の如し

正平十四年（一三五九年）八月

征西將軍宮令旨

筑前国井河半分賴香跡、為兵糧料所、筑後
国高良庄内八院已下替所、被充行也
仍執達如件

正平十五年六月五日 勘解由次官（花押 五條賴元）

小屋彈正左衛門尉殿

征西將軍宮令旨

筑前の国 井河半分（賴香跡） 兵糧 料所として 筑後の国
高良庄内 八院以下 替え所 充てがわるる也
よつて 執達 件の如し

正平十五年（一三六〇年）六月五日 かげゆうのすけ

小屋彈正左衛門の尉殿